

うまい!

岩船米づくり情報 No. 7

平成30年7月
岩船農業振興協議会
村上農業普及指導センター

大切な田んぼがやせてきています!

～土づくり肥料で肥やしましょう～

優れた品質、ぶれない良食味の岩船米づくりには「土づくり」が基本です。近年、地力が低下傾向にあり、「土づくり」の施用の有無が品質を左右しています。特に高温登熟になった場合にその差が大きく出ています。変動気象下での米づくりは、「土づくり」が重要であることを再確認して、来年の肥料設計を検討しましょう。

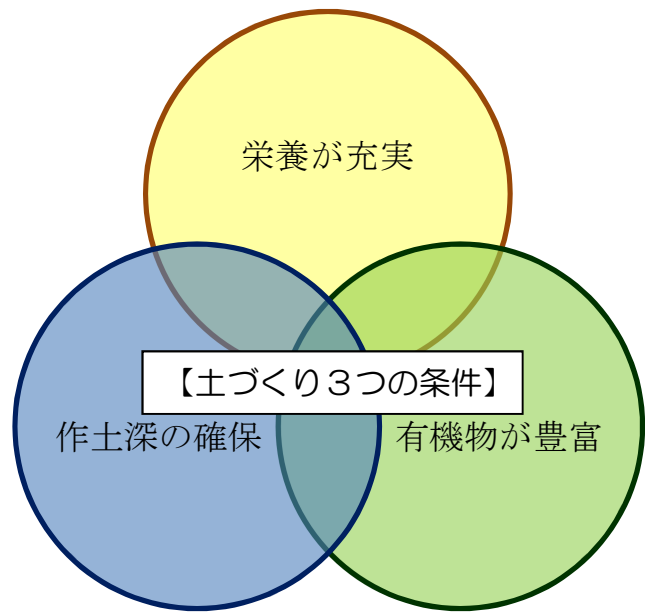
土づくりは総合技術

登熟期間の異常高温や後期栄養不足などによりコシヒカリの品質が不安定となっています。

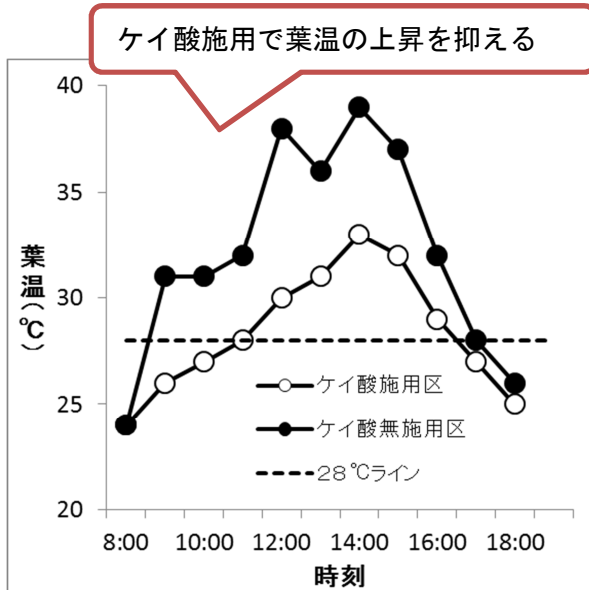
高温の年でも低温の年でも、品質の良い米を生産するには、**健康な根をもつ丈夫な稲づくりが大切**です。

土づくりは、①必要な栄養成分を補給してやるだけでなく、②根がのびのびと育つ作土深、③土の緩衝力を高める豊富な有機物があることが大切です。

あなたの水田は3つの条件がそろっていますか。



1 高温・猛暑で差がでるケイ酸肥料



高温条件における葉温に及ぼすケイ酸の効果

岩船地域では、**ほとんどの地域でケイ酸と鉄が不足**しています。特に河川流域や砂質ほ場では地下浸透の大きな水田では、作土層から徐々に失われています。

ケイ酸を多く含む稲は、**水分を根から吸収して葉から蒸散させる働きが活発**となり稲体の温度を低下させます。

それによって、猛暑時の高温によるデンプン合成阻害の影響を軽減し、**白未熟粒の発生を抑えます**。

2 堆肥は土づくりに最適な資材

- 家畜ふん堆肥は、有機質資材としての効果と、窒素成分やリン酸、加里が含まれているため、肥料としての効果が期待できます（化学肥料を低減できる）。
- 種類等により分量等が異なるので、分量や特徴を確認して使用しましょう。
- 稲わらとともに、秋施用してからすき込むと、地力向上効果がさらに高まります。

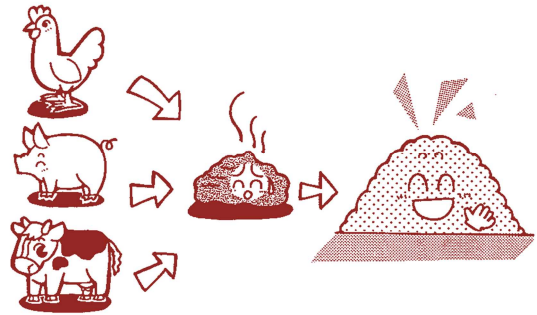


表1 堆肥施用量のめやす

堆肥の種類	発酵鶏ふん	豚ふん堆肥	牛ふん堆肥
施用量 (t/10a)	0.1	0.3	1.0

発酵鶏ふん・豚ふんは、窒素成分量が高めであるため過剰施用に注意する

3 作土深の確保

○作土の深さは15cmを確保

水稻の根は8割が作土層に分布し、残りの2割が下層に伸びます。高温に負けない稲を育てるには、作土深15cmを確保し、根をのびのび育てましょう。

但し、一度に深耕をかけると、肥料分の少ない下層土が作土に混じり込んで、初期生育が遅れる場合がありますので、毎年少しずつ深くしていきます。

ロータリ耕で作土深を確保するには、田面が十分乾燥してから、あせらずゆっくり作業でいきましょう。



図1 耕深の違いによる根の分布比較
（JA越後ながおか提供）
平成24年9月13日調査
耕深12cm ← | → 耕深15cm
深耕により根が深く入っていました

◇稲わらやもみ殻の秋すき込みで土づくり ～原材料費タダ！～

○稲わら秋すき込みは堆肥と同等の効果あり

稲わらの秋すき込みは、堆肥施用と同等の「土づくり」効果が期待できます。



稲わら秋すき込み4ヶ条

- ✓ すき込みは遅くならないうちに（10月中旬まで）
- ✓ 限りなく浅く（5cm程度）
- ✓ 枕地畦畔際は耕耘しない
- ✓ 排水不良田は耕耘しない